

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：34526

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13475

研究課題名（和文）芸能教育の学校化の効果とその応用に関する人類学的研究

研究課題名（英文）Anthropological Study on the Effects and Applications of the School-Based Performing Arts Education

研究代表者

清水 拓野（Shimizu, Takuya）

関西国際大学・国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号：40791520

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、文化人類学の視点から、演劇学校で行われる中国伝統演劇・秦腔（無形文化遺産）の俳優教育を事例として、わざや身体的技能の教授・学習の過程を分析した。これにより、近代化の一環としての「学校化」の特徴とその利点・欠点を詳細に把握することができた。さらに、国営、民営、中央政府所属の中等演劇学校の比較分析を通じて、秦腔の事例に基づく芸能教育の学校化の理論モデルを提起しました。また、この知見を応用して、学校が無形文化遺産の人材育成や保護・伝承にどのように関わるべきかを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、秦腔演劇学校の成功事例に基づき、無形文化遺産芸能の後継者育成に有効な人材育成法を提案する。この方法は、他の無形文化遺産芸能の保護・継承問題にも応用できる。また、教育現場の実践に注目した教育学の視点からの議論が少ない中で、文化人類学とその関連分野における無形文化遺産研究に貢献する。本研究は、わざや身体的技能の習得に関する知見も応用して、学校教育現場の教授・学習過程を詳細に分析する。これにより、徒弟制など非学校的教育形態を対象とした従来の研究の発展にも寄与する。さらに、「芸能教育の学校化」の特徴を明らかにすることで、「学校化」や「教育の近代化」に関する教育学的研究への貢献も期待できる。

研究成果の概要（英文）： This study, from an anthropological perspective, analyzes the teaching and learning processes of skills and physical techniques in actor training for Qin Opera, a traditional Chinese performance art and intangible cultural heritage, conducted in drama schools. Through this analysis, the characteristics, advantages, and disadvantages of "school-based" education as part of modernization were thoroughly understood.

Furthermore, a comparative analysis of state-run, privately-run, and central government-affiliated secondary drama schools led to the proposal of a theoretical model for the school-based education of performing arts, based on the Qin Opera case. Additionally, this knowledge was applied to clarify how schools should be involved in the human resource development, protection, and transmission of intangible cultural heritage.

研究分野：文化人類学

キーワード：学校化 無形文化遺産の保護・伝承 芸能教育 秦腔

1. 研究開始当初の背景

文化人類学と関連分野の従来の芸能教育研究では、徒弟教育を通じた芸能の伝承が主に報告され、学校を通じた伝承にはほとんど注目されていなかった。例えば、民俗芸能研究では90年代半ばから2000年代前半にかけて芸能教育が研究されたが、学校を通じた事例はほとんどなかった。これは、研究対象の芸能がまだ学校化していなかったことや、学校化に関心のない研究者が多かったことが理由として考えられる。しかし、近年、学校で伝承される芸能が増え、関心も高まりつつある。例えば、神楽の民俗学的研究や京都の芸舞妓学校、宝塚音楽学校の研究、八重山諸島石垣島の郷土音楽教育の比較研究などが見られる。

これらの研究でも、芸能教育における「学校化」の特徴や効果についての十分な記述・分析はされていない。芸能教育の発展方向を示すためには、これらの問題を明らかにする必要がある。そこで筆者は、博士論文研究において、中等国営演劇学校での中国伝統演劇・秦腔の事例に基づき、その俳優教育が徒弟制から学校化した過程を分析し、「学校化」の仮説として 師弟関係の脱封建化、教授法の理論化、学習と労働の分離を提案した。

しかし、この研究は初歩的な知見を提供したに過ぎず、西安の国営演劇学校の事例のみを分析したため、より多くの事例を基に仮説を緻密化する必要がある。特に、異なるタイプの演劇学校の比較分析を通じて、学校化が芸の習得や人材育成に与える効果をさらに考察する必要がある。また、演劇学校の知見が他の無形文化遺産芸能の保護・継承研究にも応用できることを確信した。

2. 研究の目的

本研究は、引き続き中国伝統演劇・秦腔に注目し、先行する博士論文研究を発展させたものである。近代化現象としての「学校化」の特徴とその利点・欠点を詳細に分析し、秦腔の事例を基に芸能教育の学校化の理論モデルを構築する。また、この知見を応用して、無形文化遺産芸能の人材育成における学校の役割を明らかにする。

秦腔は、早期に国定無形文化遺産に認定され、長年続く演劇学校を通じて後継者育成に成功してきた。本研究では、この成功事例に基づき、無形文化遺産芸能の後継者育成に有効な人材育成法を提案する。この方法は、演劇学校の知見を活かしており、他の無形文化遺産芸能の保護・継承にも応用可能である。

本研究では、西安の国営演劇学校に加え、民営演劇学校と中央政府直属の演劇学校を比較分析する。民営演劇学校は経済的条件が悪く、徒弟制に類似した原始的な教育組織であり、高度に学校化している国営演劇学校との対比が可能である。中央政府直属の演劇学校である北京の中国戯曲学院は、国策の影響を受けた中国で最も先進的な伝統演劇学校であり、西安の国営演劇学校の実践との比較対象となる。

これら3種類の演劇学校の比較結果を踏まえ、芸能教育の学校化の理論モデルを緻密化する。また、秦腔が学校を活用して後継者育成に成功した方法を明らかにし、他の無形文化遺産芸能の保護・継承問題への具体的な貢献を示す。これには、文化行政政策や保護・継承方法に関する提言も含まれる。

3. 研究の方法

本研究では、文献収集・分析とフィールドワークを並行して行う。文献収集・分析では、秦腔の俳優教育の資料のみならず、中国伝統演劇界全体の動向を把握するために、国劇である京劇の俳優教育に関するものも対象とする。フィールドワークは、中国で毎年9月と2月の2回に分けて行い、異なる世代の俳優への下積み修行や芸歴に関するインタビューや、国営演劇学校や民営演劇学校におけるわざや身体的技能の教授・学習過程にも注意を払った、マイクロ・エスノグラフィ的な稽古の参与観察を行う。

また、俳優教育の成果を確認するために、可能な限り演劇学校在校生や卒業したての若手俳優の舞台も観劇する。そして、秦腔関連の重要な演劇評論雑誌や大手の秦腔演劇サイトなどに掲載されている演劇評論文もチェックして、彼らの演技に対する演劇業界内外の評価も把握する。おもな調査地域は、秦腔の本拠地・陝西省西安市であるが、必要に応じて近郊都市へも訪問する。伝統演劇界の中央の動向を把握するために、伝統演劇の最高学府である北京の中国戯曲学院への訪問も行う。

4. 研究成果

研究期間全体を通じて、3種類の演劇学校（国営、民営、中央政府直屬）における、わざや身体的技能の教授・学習の観点から、学校化の特徴と長短を詳細に分析した。本研究に先駆けて行った私の関連研究では、秦腔の俳優教育が徒弟制から近代学校へと変化する過程で、師弟関係の脱封建化、教授法の理論化、学習と労働の分離が見られた。しかし、本研究では、特に体系化された教育組織において、俳優の演技の芸術的創造性を促進するための仕組みや条件が顕著であることが分かった。例えば、国営演劇学校や中央の演劇学校では、潤沢な資金やグローバルな視点からの教育計画があり、外国の演劇作品や演技手法も学ぶことができる。これらの学校では、経営を成り立たせるために学生が上演活動に追われる民営演劇学校とは異なり、対外公演の場から一步引いたところで教育に専念できる環境が整っている。また、学術的に刺激的な教員や演劇監督とのネットワークを構築しやすく、上演の失敗を恐れずに稽古で試行錯誤する「日常の実験」が行いやすい。これらの要素は、学生の演技の芸術的創造性を高めるのに寄与している。

本研究では、こうした成果を能楽などの他の芸能と比較し、創造性の育成がどのような条件下で促進されるかをさらに幅広い文脈で考察した。その結果、秦腔の俳優教育では、国営演劇学校や中央の演劇学校が民営演劇学校ほど対外公演を通じた実践の機会を提供していないという課題も見られた。秦腔のような無形文化遺産にとって、時代の変化に適応して生き残るためには、伝統の継承と革新の両方が重要であり、芸術的創造性に関する以上の知見は無形文化遺産の保護と伝承のあり方を考える上で示唆的である。

また、芸能教育の学校化過程は、演劇文化の伝承に介在する「権威的知識」の生産、維持、普及とも関わっている。すなわち、国営演劇学校や中央の演劇学校では、演劇界で広く受け入れられる「権威的知識」が生まれ出されている。これらの知識は、専門家や権威ある機関によって維持され、標準として認められている。秦腔の場合、国営演劇学校や中央の演劇学校がその役割の一端を担っており、声楽的な発生法を応用した唱念（歌と台詞）に関するトレーニング方法やスタニスラフスキーを始め国内外の演技理論を取り入れた俳優の演技訓練が重視されている。しかし、民営演劇学校では、これらの「権威的知識」には一目置いているものの、経済的理由からそれを十分に導入できていない。したがって、学校間の経済格差が改善されない限り、「権威的知

識」が演劇界全体に浸透するのは難しいと言える。

本研究は、「学校化」「権威的知識」「日常の実験」という新しい視点から、芸能教育の教授・学習過程や人材育成過程を分析した。これらの視点は、「伝統」の継承と革新の問題にも関わるため、今後はその分野への貢献も目指したいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 清水拓野、西尾久美子	4. 巻 12(1)
2. 論文標題 A Comparative Analysis on the Relationship Between Artistic Creativity and Career Development in Chinese and Japanese Traditional Performing Arts	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Systems and Service-Oriented Engineering (IJSSOE)	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水拓野	4. 巻 48
2. 論文標題 中国戯劇人類学の特徴と展開：中国本土研究者の研究動向を中心として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会人類学年報	6. 最初と最後の頁 69-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水拓野	4. 巻 24
2. 論文標題 教育の視点からみた無形文化遺産研究：「実践知」の概念を手がかりに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西国際大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 劉争、清水拓野、田中智子、小磯学	4. 巻 24
2. 論文標題 「伝統」の継承と変容に関する学際的研究：中国、台湾、インドの比較事例研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西国際大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 175-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水拓野	4. 巻 23
2. 論文標題 「「日常の実験」としての芸能学校の芸の習得過程：中国伝統演劇・秦腔の事例から」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『関西国際大学研究紀要』	6. 最初と最後の頁 97-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水拓野・西尾久美子	4. 巻 Volume 10, Issue 2
2. 論文標題 Characteristics and Development Patterns of the Process of Vocational Education for Chinese and Japanese Performing Arts: A Comparative Analysis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Systems and Service-Oriented Engineering	6. 最初と最後の頁 70-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 清水拓野	4. 巻 21巻
2. 論文標題 「芸の教授・学習過程からみた芸能学校の実技試験：芸能教育の学校化の一側面」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『関西国際大学研究紀要』	6. 最初と最後の頁 45-58頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件／うち国際学会 8件）

1. 発表者名 清水拓野、西尾久美子
2. 発表標題 "An Educational Study on Career Development and Artistic Creativity in Chinese and Japanese Traditional Performing Arts"
3. 学会等名 AIMAC 2022 16th International Conference on Arts and Cultural Management（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 清水拓野
2. 発表標題 「教育の視点からみた無形文化遺産研究：中国無形文化遺産の事例を中心に」
3. 学会等名 第41回京都民俗学会年次研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 清水拓野
2. 発表標題 「『権威的知識』の概念からみた中国伝統演劇・秦腔の継承と革新」
3. 学会等名 関西国際大学Well-being研究所共同研究プロジェクト「伝統と個人」2022年度第1回研究会プログラム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 清水拓野、西尾久美子
2. 発表標題 "A Comparative Study on the Acquisition Process of Practical Intelligence of Chinese and Japanese Traditional Performing Arts: With a Focus on the Concept of Authoritative Knowledge"
3. 学会等名 International Conference on Business, Economics and Information Technology (ICBEI) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 清水拓野
2. 発表標題 中国戯劇の人類学的研究と中国戯劇人類学
3. 学会等名 国立民族学博物館・国際共同研究会「社会・文化人類学における中国研究の理論的定位置 12のテーマをめぐる再検討と再評価」(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清水拓野
2. 発表標題 Educational Perspective on the Process of Modernizing Education for Chinese Intangible Cultural Heritage: A Case Study on Qin Opera
3. 学会等名 The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) 2020: Coming of Age on Earth (Legacies and Next Generation Anthropology) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清水拓野・西尾久美子
2. 発表標題 A Comparative Analysis on the Relation between Artistic Creativity and Career Development Education in Chinese and Japanese Traditional Performing Arts
3. 学会等名 International Conference on Business, Economics and Information Technology (ICBEI) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清水拓野、西尾久美子
2. 発表標題 Characteristics and Development Patterns of the Process of Modernizing Education for Chinese and Japanese Performing Arts: A Comparative Analysis
3. 学会等名 AIMAC 2019 15th International Conference on Arts and Cultural Management (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水拓野
2. 発表標題 表演芸術学校化教育の特点和效果：中国秦腔和日本宝塚歌劇の比較研究
3. 学会等名 第三屆戲曲与俗文学研究國際學術研討会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水拓野、西尾久美子
2. 発表標題 Characteristics and Development Patterns of the Process of Vocational Education for Chinese and Japanese Performing Arts: A Comparative Analysis
3. 学会等名 2020 International Conference on Business, Economics and Information Technology (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 清水拓野	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 346
3. 書名 中国伝統芸能の俳優教育: 陝西省演劇学校のエスノグラフィー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------